

麦踏みの時期です

- ☞ ほ場が2.5葉期になったら麦踏みを実施
- ☞ 回数を目安は、年内に1～2回、年明け後～茎立期直前(3月上旬)までに2～3回

1 生育状況

- ◇ 播種後～12月上旬までの気温はほぼ平年並で経過しましたが、12月第3半旬が1.8℃高く、日照時間も平年比127%と多くなりました。(表1)
- ◇ 今年の適期(11月6日～15日頃)に播種した麦は、気温がほぼ平年並で経過したことから、生育も平年並でした。しかし、12月第3半旬の気温、日照時間が平年を上回ったことで生育が進み、既に年内に確保すべき葉齢(3～4.5葉)に達しつつあります。(表2)

表1 気温、日照時間の平年差、比
(塩谷アメダスデータ)

月・旬		平均気温 ℃	日照時間 %
11月	上旬	-0.5	159
	中旬	1.1	131
	下旬	0.9	51
12月	上旬	-0.7	85
	第3半旬	1.8	127

2 今後の管理

- ◇ 関東甲信地方1か月予報(令和元年12月12日気象庁発表)では、向こう1か月の気温は平年並～高い確率90%、降水量は平年並～多い確率80%となっています。
- ◇ これにより、生育は更に進むと予想されるので、麦踏により生育を抑えるとともに、耐寒性も高めておく必要があります。
- ◇ ほ場の大半が2.5葉期になったら、土壌水分(靴に土がつかない程度が目安)に注意して、最低でも年内に1回は麦踏みを行いましょう。
- ◇ さらに、降水量も多い予報なので、排水対策を必ず実施してください。

表2 播種日と葉齢(二条大麦、12月18日)

市町	播種日	葉齢
さくら市長久保	11月8日	2.5
高根沢町大谷	11月12日	3.0
高根沢町上高根沢	11月8日	3.5

【麦踏みの効果】

- ① 過剰生育の抑制、② 分けつの促進、③ 根張りの向上、④ 耐寒性の向上
- なお、麦踏みが不足すると、春先の寒さによる幼穂凍死が助長されるとともに、赤かび病にかかりやすくなります。



農作物には登録農薬を使用し、使用基準を遵守しましょう！

身支度も
万全にし
てまる！

- ① 農薬容器のラベルをよく読み正しく使う
- ② 農薬の飛散防止を徹底する
- ③ 農薬の使用状況を正確に記帳する